

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2011-235076

(P2011-235076A)

(43) 公開日 平成23年11月24日(2011.11.24)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 F 13/66 (2006.01)	A 4 1 B 13/08 E	3 B 2 0 0
A 6 1 F 13/49 (2006.01)	A 4 1 B 13/02 H	
A 6 1 F 13/56 (2006.01)		

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 20 頁)

(21) 出願番号	特願2010-132456 (P2010-132456)	(71) 出願人	000110044
(22) 出願日	平成22年6月9日 (2010.6.9)		株式会社リブドゥコーポレーション
(31) 優先権主張番号	特願2010-93573 (P2010-93573)		愛媛県四国中央市金田町半田乙45番地の2
(32) 優先日	平成22年4月14日 (2010.4.14)	(74) 代理人	100075409
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)		弁理士 植木 久一
		(74) 代理人	100129757
			弁理士 植木 久彦
		(74) 代理人	100115082
			弁理士 菅河 忠志
		(74) 代理人	100125243
			弁理士 伊藤 浩彰

最終頁に続く

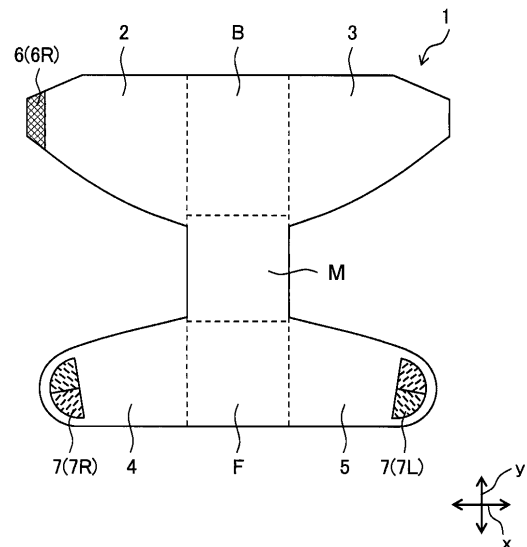
(54) 【発明の名称】 おむつカバーおよび使い捨ておむつ

(57) 【要約】

【課題】着用時にフラップ部に設けられたフック部材の接合が外れにくいおむつカバーを提供する。

【解決手段】前後方向yに前方部Fと後方部Bとこれらの間に位置する中間部Mと、後方部Bから幅方向xに延在する右ウェスト部2と左ウェスト部3と、前方部Fから幅方向xに延在する右フラップ部4と左フラップ部5とを有するおむつカバー1であって、右フラップ部4および/または左フラップ部5は複数のフックを有するフック部材7を備え、フック部材7は少なくとも第1領域と第2領域を有し、第1領域でフックが一方方向に配向し第2領域でフックが他方向に配向し、右フラップ部4または左フラップ部5を前後方向yに横断し、第1領域と第2領域の両方と交わる仮想線が存在するおむつカバー。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

前後方向に前方部と後方部とこれらの間に位置する中間部と、前記後方部から幅方向に延在する右ウェスト部と左ウェスト部と、前記前方部から幅方向に延在する右フラップ部と左フラップ部とを有するおむつカバーであって、

前記右フラップ部および／または前記左フラップ部は、複数のフックを有するフック部材を備え、

前記フック部材は少なくとも第 1 領域と第 2 領域を有し、第 1 領域で前記フックが一方向に配向し、第 2 領域で前記フックが他方向に配向し、

前記右フラップ部または前記左フラップ部を前記前後方向に横断し、前記第 1 領域と前記第 2 領域の両方と交わる仮想線が存在することを特徴とするおむつカバー。 10

【請求項 2】

前記右フラップ部および／または前記左フラップ部は、前記第 1 領域が形成された第 1 フック部材と前記第 2 領域が形成された第 2 フック部材を含む複数のフック部材を備え、

前記仮想線が前記第 1 フック部材と前記第 2 フック部材の両方と交わる請求項 1 に記載のおむつカバー。

【請求項 3】

前記第 1 フック部材は前記右フラップ部または前記左フラップの前記幅方向の内方に向かって狭くなり、前記第 2 フック部材は前記右フラップ部または前記左フラップの前記幅方向の外方に向かって狭くなる請求項 2 に記載のおむつカバー。 20

【請求項 4】

前記第 1 フック部材と前記第 2 フック部材は、前記右フラップ部または前記左フラップの外縁から内方に向かって狭くなる請求項 2 に記載のおむつカバー。

【請求項 5】

前記第 1 フック部材と前記第 2 フック部材は、前記右フラップ部または前記左フラップの前記幅方向の内方に向かって狭くなる請求項 2 に記載のおむつカバー。

【請求項 6】

前記第 1 フック部材と前記第 2 フック部材が離間している請求項 2 ～ 5 のいずれか一項に記載のおむつカバー。

【請求項 7】

前記右フラップ部と前記左フラップ部と前記中間部が伸縮可能である請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載のおむつカバー。 30

【請求項 8】

前記右ウェスト部と前記左ウェスト部の一方または両方にウェスト用留め具が設けられている請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載のおむつカバー。

【請求項 9】

請求項 1 ～ 8 のいずれか一項に記載のおむつカバーの中間部に吸収性コアが設けられていることを特徴とする使い捨ておむつ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、おむつカバーおよび使い捨ておむつに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、おむつカバーとして、前後方向に前方部と後方部とこれらの間に位置する中間部と、後方部から幅方向に延在する右ウェスト部と左ウェスト部と、前方部から幅方向に延在する右フラップ部と左フラップ部とを有するおむつカバーが知られている。このようなおむつカバーは、右ウェスト部と左ウェスト部を着用者の腰回りに固定して、さらに右フラップ部と左フラップ部を着用者の腰回りに固定された右ウェスト部または左ウェスト部に固定して着用する。例えば、特許文献 1 には、このようなおむつカバーに、右ウェスト 40 50

部と左ウェスト部の少なくともいずれか一方と右フラップ部と左フラップ部にフック・ループ・ファスナーのフック部材を設けることが開示されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特開2006-42863号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

ところで特許文献1に開示されるようなおむつカバーでは、フラップ部に設けられたフック部材は、おむつカバーの着用時、着用者の腰骨（腸骨、特に腸骨陵等）付近に固定される場合が多い。しかし人体のこのような箇所は大きな凹凸（曲面）があり、フック部材をこのような箇所に固定する場合、フック部材が外れやすくなる。

【0005】

本発明は前記事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、着用時、フラップ部に設けられたフック部材の接合が外れにくいおむつカバーおよび使い捨ておむつを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

前記課題を解決することができた本発明のおむつカバーとは、前後方向に前方部と後方部とこれらの間に位置する中間部と、後方部から幅方向に延在する右ウェスト部と左ウェスト部と、前方部から幅方向に延在する右フラップ部と左フラップ部とを有するおむつカバーであって、右フラップ部および／または左フラップ部は複数のフックを有するフック部材を備え、フック部材は少なくとも第1領域と第2領域を有し、第1領域でフックが一方方向に配向し第2領域でフックが他方向に配向し、右フラップ部または左フラップ部を前後方向に横断し、第1領域と第2領域の両方と交わる仮想線が存在するところに特徴を有する。

【0007】

本発明のおむつカバーは、フック部材のフックが第1領域と第2領域で異なる方向に配向しているため、フラップ部（右フラップ部および／または左フラップ部）のフック部材に様々な方向の力が作用しても、第1領域と第2領域の接合（係合）が一度には外れにくくなる。また、おむつカバーは、右フラップ部または左フラップ部を前後方向に横断し、第1領域と第2領域の両方と交わる仮想線が存在するように、第1領域と第2領域が配置されているため、フラップ部のフック部材を着用者の腰骨（腸骨、特に腸骨陵等）付近に固定しても、第1領域と第2領域が着用者の上下方向の凹凸や曲面に対しフィットしやすくなる。その結果、フック部材を着用者の腰回りに安定して固定しておむつカバーを着用することができる。

【0008】

右フラップ部および／または左フラップ部は、第1領域が形成された第1フック部材と第2領域が形成された第2フック部材を含む複数のフック部材を備え、仮想線が第1フック部材と第2フック部材の両方と交わることが好ましい。このように第1領域と第2領域が異なるフック部材に形成されれば、フラップ部に備えられるフック部材の接合がさらに強くなる。また、フラップ部に第1領域と第2領域を形成することが容易になる。

【0009】

第1フック部材は右フラップ部または左フラップの幅方向の内方に向かって狭くなり、第2フック部材は右フラップ部または左フラップの幅方向の外方に向かって狭くなることが好ましい。このように第1フック部材と第2フック部材を設ければ、第1フック部材が左右フラップ部の端部側からの剥離力に対抗することができ、第2フック部材が左右フラップ部の内方からの剥離力に対抗することができる。特に第2フック部材は、着用者が激しい動きをしたりしておむつカバーの前方部が歪んだり捻れたりしても、左右フラップ部

から外れにくくなる。また、第1フック部材と第2フック部材を密に配しやすくなり、フック部材全体としての設置面積を広くとりやすくなる。その結果、フック部材全体の接合力を高めやすくなる。

【0010】

第1フック部材と第2フック部材は、右フラップ部または左フラップの外縁から内方に向かって狭くなるように設けられることも好ましい。このように第1フック部材と第2フック部材を設ければ、第1フック部材と第2フック部材のそれぞれが左右フラップ部の外縁側からの剥離力に対抗することができ、第1フック部材と第2フック部材の接合が強くなる。また、第1フック部材と第2フック部材を密に配しやすくなり、フック部材全体としての設置面積を広くとりやすくなる。その結果、フック部材全体の接合力を高めやすくなる。

10

【0011】

第1フック部材と第2フック部材は、右フラップ部または左フラップの幅方向の内方に向かって狭くなるように設けられることも好ましい。このように第1フック部材と第2フック部材を設ければ、第1フック部材と第2フック部材のそれぞれが左右フラップ部の端部側からの剥離力に対抗することができ、第1フック部材と第2フック部材の接合が強くなる。また、第1フック部材と第2フック部材が幅方向の内方に向かって狭くなっているため、左右フラップ部の幅方向の内方側では、おむつカバーの柔軟性や伸縮性がフック部材により阻害されにくくなり、おむつカバーの取り扱い性が向上する。

【0012】

20

第1フック部材と第2フック部材は離間していることが好ましい。第1フック部材と第2フック部材が離間して設けられていれば、フラップ部のフック部材が備えられる部分で着用者の凹凸や曲面に追従しやすくなる。また、フラップ部に備えられるフック部材の接合の全てが一度には外れにくくなる。

【0013】

右フラップ部と左フラップ部と中間部が伸縮可能であることが好ましい。おむつカバーのこれらの部分が伸縮可能であれば、左右フラップ部を着用者の左右方向に拡張させながら着用者の上方向に引っ張って、左右フラップ部を着用者の腹部に固定することで、着用者の脚回りのフィット性を高めやすくなる。

【0014】

30

右ウェスト部と左ウェスト部の一方または両方にウェスト用留め具が設けられていることが好ましい。ウェスト用留め具が設けられていれば、左右ウェスト部を着用者の腰回りに固定することが容易になる。

【0015】

本発明はまた、本発明のおむつカバーの中間部に吸収性コアが設けられた使い捨ておむつを提供する。本発明の使い捨ておむつもまた、フック部材を安定して着用者の腰回りに固定して着用することができる。

【発明の効果】

【0016】

40

本発明のおむつカバーおよび使い捨ておむつは、着用時、フラップ部に設けられたフック部材の接合が外れにくい。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】本発明のおむつカバーの一実施態様を表す。

【図2】図1に示したおむつカバーの着用方法の例を表す。

【図3】図1に示したおむつカバーの右フラップ部の拡大図を表す。

【図4】図3に示したフラップ部（フック部材）のA-A断面図を表す。

【図5】フラップ部に設けられるフック部材の形状や配置の一例を表す。

【図6】図5に示したフック部材の製造例を表す。

【図7】フラップ部に設けられるフック部材の形状や配置の一例を表す。

50

【図 8】図 7 に示したフック部材の製造例を表す。

【図 9】フラップ部に設けられるフック部材の形状や配置の一例を表す。

【図 10】図 9 に示したフック部材の製造例を表す。

【図 11】フラップ部に設けられるフック部材の形状や配置の一例を表す。

【図 12】本発明の使い捨ておむつの一実施態様を表す。

【図 13】図 12 の使い捨ておむつの B-B 断面図を表す。

【発明を実施するための形態】

【0018】

本発明のおむつカバーについて、図面を参照して説明する。なお、本発明のおむつカバーは、図面に示された実施態様に限定されるものではない。図 1 は、本発明のおむつカバーの一例を表す。図では、矢印 x を幅方向、矢印 y を前後方向と定義付ける。

10

【0019】

おむつカバー 1 は、前後方向 y と幅方向 x とを有する。前後方向 y とは、おむつカバーを着用者が着用した際、着用者の股間の前後方向に延びる方向を意味する。図 1 において、下側が前方に相当し、上側が後方に相当する。幅方向 x とは、おむつカバーと同一面上にあり、前後方向 y と直交する方向を意味する。幅方向 x は、おむつカバーを着用者が着用した際、着用者の左右方向に相当する。おむつカバー 1 は、また、おむつカバーを着用した際の着用者側に位置する内面と、おむつカバーを着用した際の着用者とは反対側に位置する外面とを有する。

【0020】

20

おむつカバー 1 は、前後方向 y に前方部 F と後方部 B とこれらの間に位置する中間部 M とを有する。前方部 F とは、おむつカバー 1 の前後方向 y の一方端に形成され、おむつカバー着用時に着用者の腹側に当てる部分を意味する。後方部 B とは、おむつカバー 1 の前後方向 y の他方端に形成され、おむつカバー着用時に着用者の背側に当てる部分を意味する。中間部 M とは、前方部 F と後方部 B との間に位置し、着用者の股間に当てる部分を意味する。なお、本発明において、前方部 F、中間部 M、後方部 B は、後記する右ウェスト部 2、左ウェスト部 3、右フラップ部 4、左フラップ部 5 を含まない部分と規定する。図 1 では、前方部 F、中間部 M、後方部 B、右ウェスト部 2、左ウェスト部 3、右フラップ部 4、左フラップ部 5 を、便宜的に点線で区分して表示している。

【0021】

30

前方部 F、中間部 M、および後方部 B は、例えば、それぞれおむつカバー 1 の前後方向 y の長さの 30%、30%、および 40% の領域を占める。図 1 に示されるおむつカバー 1 では、前方部 F、中間部 M、および後方部 B は、このような割合で分割されている。

【0022】

おむつカバー 1 は、後方部 B から幅方向 x に延在する右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 とを有する。右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 は、おむつカバー 1 の着用時にそれぞれ着用者の右側と左側の腰回りに当てる部分である。図 1 では、図面の右側が、おむつカバーの着用時に着用者の左側に位置し、図面の左側が、おむつカバーの着用時に着用者の右側に位置する。従って、図 1 では、おむつカバーの内面が見えるように、おむつカバーが示されている。

40

【0023】

おむつカバー 1 は中間部 M が最も幅方向 x に狭く形成される。左右ウェスト部 2、3 は、中間部 M の最も幅狭な部分の外縁より幅方向 x の外方に位置する部分に相当する。右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 は、少なくとも後方部 B から幅方向 x に延在していればよく、さらに中間部 M から幅方向 x に延在していてもよい。おむつカバー 1 は、着用時、右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 と後方部 B とで着用者の腰回りを覆う。おむつカバー 1 は、着用の際、右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 が幅方向 x に重なる部分の長さが、着用者の腰回りの周長の 10%～60%（より好ましくは、20%～50%）となるように着用することが好ましい。

【0024】

50

おむつカバー 1 は、前方部 F に、幅方向 x に延在する右フラップ部 4 と左フラップ部 5 とを有する。左右フラップ部 4, 5 は、中間部 M の最も幅狭な部分の外縁より幅方向 x の外方に位置する部分に相当する。左右フラップ部 4, 5 は、少なくとも前方部 F から幅方向 x に延在していればよく、さらに中間部 M から幅方向 x に延在してもよい。右フラップ部 4 と左フラップ部 5 は、おむつカバー 1 の着用時に、前方部 F とともに着用者の腹部を覆う部分である。右フラップ部 4 と左フラップ部 5 は、おむつカバー 1 の着用時、着用者の背側にまで達するものであってもよい。

【0025】

右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 の一方または両方には、ウェスト用留め具 6 が設けられることが好ましい。右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 の一方または両方にウェスト用留め具 6 が設けられれば、ウェスト用留め具 6 により右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 とを連結することができ、その結果、左右ウェスト部 2, 3 を着用者の腰回りに固定することが容易になる。以下、右ウェスト部に設けられるウェスト用留め具を表す符号として「6 R」を用い、左ウェスト部に設けられるウェスト用留め具を表す符号として「6 L」を用いる場合がある。図 1 では、右ウェスト部 2 にのみウェスト用留め具 6 R が設けられる実施態様を示しており、右ウェスト部 2 をウェスト用留め具 6 R により左ウェスト部 3 または後方部 B に接合することにより、左右ウェスト部 2, 3 を着用者の腰回りに固定することができる。

【0026】

右フラップ部 4 および／または左フラップ部 5 は、複数のフックを有するフック部材 7 を備える。図 1 では、右フラップ部 4 と左フラップ部 5 にそれぞれフック部材 7 が備えられている。フック部材 7 としては、フック・ループ・ファスナー（いわゆる、面ファスナー）のフック部材を用いればよい。なお、右フラップ部に設けられるフック部材を表す符号として「7 R」を用い、左フラップ部に設けられるフック部材を表す符号として「7 L」を用いる場合がある。

【0027】

左右フラップ部 4, 5 のフック部材 7 は、左右ウェスト部 2, 3 または後方部 B の外面に接合可能に設けられることが好ましい。従って、フック部材 7 は、左右フラップ部 4, 5 の内面に設けられることが好ましい。

【0028】

おむつカバー 1 を着用する際は、着用者の腰回りに装着された左右ウェスト部 2, 3 または後方部 B に、左右フラップ部 4, 5 をフック部材 7 により接合する。その結果、着用者の脚回りの密着性が高まり、おむつカバー 1 のフィット性が向上する。具体的には、右ウェスト部 2 と中間部 M の右側と右フラップ部 4 のそれぞれの外縁により、着用者の右脚のそけい部周辺のフィット性が高められ、左ウェスト部 3 と中間部 M の左側と左フラップ部 5 のそれぞれの外縁により、着用者の左脚のそけい部周辺のフィット性が高められる。

【0029】

フック部材 7 は、おむつカバー 1 の着用時、着用者の背側または横側で固定可能に右フラップ部 4 および／または左フラップ部 5 に設けられることが好ましい。具体的には、フック部材 7 は、背骨（具体的には、背骨の中心線）から着用者の胴回りの長さの 5 % 以上 35 % 以下の領域（左右合わせて着用者の胴回りの長さの 60 % の領域）に固定可能であることが好ましい。なお、背骨の中心線とは、着用者が起立した状態で、上下方向に伸びる中心線を意味する。

【0030】

図 1 に示すおむつカバーの着用方法の一例について、図 2 を用いて説明する。図 2 に示すおむつカバー 1 は、左右ウェスト部 2, 3 と後方部 B が、ウェスト用留め具 6 とフラップ部に設けられるフック部材 7 が接合可能な材料から構成されている。なお、「右フラップ部および／または左フラップ部」を略して「フラップ部」と称する場合がある。

【0031】

おむつカバー 1 は、後方部 B を着用者の背側に当てながら、右ウェスト部 2 を着用者の

10

20

30

40

50

右側の腰回りに当て、左ウェスト部 3 を着用者の左側の腰回りに当てる。次いで、右ウェスト部 2 を引っ張りながら、右ウェスト部 2 のウェスト用留め具 6 R を左ウェスト部 3 の外面に接合する（図 2（a），（b）参照）。その結果、左右ウェスト部 2，3 を着用者の腰回りに固定することができる。次いで、前方部 F と左右フラップ部 4，5 を、着用者の股間を通して着用者の腹側に持ってきて、左右フラップ部 4，5 を着用者の左右方向に拡張させながら着用者の上方向に引っ張って、左右フラップ部 4，5 をフック部材 7 によりウェスト部 2，3 または後方部 B に固定する（図 2（b），（c）参照）。その結果、おむつカバー 1 を着用することができる。図 2（c）では、左右フラップ部 4，5 に備えられたフック部材 7 を着用者の背側に接合しているが、フック部材 7 は着用者の腹側に接合するものでもよい。

10

【0032】

ところで、フラップ部に備えられたフック部材は、おむつカバーの着用時、着用者の腰骨（腸骨、特に腸骨隆等）付近に固定される場合が多い。しかし、人体のこのような箇所は大きな凹凸や曲面があり、特に着用者の上下方向に対し大きな凹凸や曲面が形成されている。そのため、フック部材をこのような箇所に固定した場合、フック部材が外れやすくなる。また、おむつカバーを着用した状態では、フラップ部のフック部材に着用者の左右方向の内方や着用者の下方向等の様々な方向の力が作用しやすい。さらに、着用者の動きや体位に応じ、フック部材に作用する力の方向や大きさがその時々で変化する。その結果、左右ウェスト部等に接合したフック部材がさらに外れやすくなる。これらの課題は、いわゆるテープ型おむつの背側の左右両端に設けられるフック部材ではほとんど意識されない。なぜなら、テープ型おむつに設けられるフック部材は着用者の腹側の比較的平坦な部分に接合されるからである。

20

【0033】

そこで本発明においては、フラップ部に備えられたフック部材の接合（係合）が容易に外れにくくするために、フック部材が後述する第 1 領域と第 2 領域を少なくとも有し、第 1 領域と第 2 領域を特定の方向に配している。これについて、以下に説明する。

【0034】

右フラップ部 4 および／または左フラップ部 5 に備えられるフック部材 7 の詳細について、図 3 および図 4 を参照して説明する。図 3 は、図 1 に示したおむつカバー 1 の右フラップ部 4 の拡大図を示す。図 4 は、図 3 に示した右フラップ部 4 の A-A 断面図を示す。図 4（a）と図 4（b）には、フック部材 7 R の異なる実施態様がそれぞれ示されている。

30

【0035】

図 3 および図 4 では、フック部材 7 は、右フラップ部 4 を構成する本体シート 1 4 に取り付けられている。本体シート 1 4 は、例えば、前方部 F と中間部 M と後方部 B と左右ウェスト部 2，3 と左右フラップ部 4，5 を形成している。フック部材 7 は、例えば、基盤 1 3 と、基盤 1 3 から突出する複数のフック 1 2 を有する。基盤 1 3 は、フック 1 2 が設けられる面と反対側の面で、本体シート 1 4 に固定されている。

【0036】

図 4 ではフック 1 2 は鉤形を有している。フックの形状は鉤形に限定されず、錨形やきこの形等の形状であってもよい。つまりフック部材 7 は、基盤 1 3 からフック 1 2 として複数のピンが突出し、ピンの頂部に係合部が設けられている。係合部は、フック 1 2 の形状に応じて様々な形状を有している。例えば、鉤形のフックの場合には、ピンの頂部が一方方向に曲がっている。錨形のフックの場合には、ピンの頂部に係合部として横木が設けられている。この場合、横木は棒状である必要はなく、ピンの中心軸に対し略点対称に延びるものであればよい。きこの形のフックの場合には、ピンの頂部に係合部としてキャップが設けられている。このキャップは、短軸方向と長軸方向を有するなど、異方性を有していることが好ましい。キャップは、例えば、ピンの中心軸に対し垂直な面での断面が楕円形となるような形状を有する。錨形やきこの形のフックは、一般に係合部がピンの中心軸に対し略点対称の形状を有している。

40

50

【0037】

フック部材7は、少なくとも第1領域11aと第2領域11bとを有し、第1領域11aでフック12が一方向に配向し、第2領域11bでフック12が他方向に配向している。つまり、第1領域11aに設けられた複数のフック12と第2領域11bに設けられた複数のフック12はそれぞれの領域で同じ方向に配向しているが、第1領域11aのフック12の配向方向と第2領域11bのフック12の配向方向は互いに異なる。なお、図3では、フック12の配向方向を直線で表している。

【0038】

フックが一方向に配向することは次のように説明される。つまり、フック部材を平面視で見た場合（フック部材を基盤に対し垂直方向で見た場合）、フックの頂部の形状が一方向に整列している。例えば、鉤形のフックの場合には、フック（ピン）の頂部の曲がり方向が一方向に揃っている。錨形のフックの場合には、ピンの頂部に設けられた横木の配列方向が一方向に揃っている。きのこ形のフックの場合には、ピンの頂部に設けられたキャップの配向方向が一方向に揃っている。

【0039】

第1領域11aと第2領域11bは、次に説明する仮想線が存在するように、右フラップ部4または左フラップ部5に配される。すなわち、おむつカバー1には、右フラップ部4または左フラップ部5を前後方向yに横断し、第1領域11aと第2領域11bの両方と交わる仮想線が存在する。図3では、A-A断面が右フラップ部4を前後方向yに横断しており、A-A断面が第1領域11aと第2領域11bの両方と交わっているため、A-A断面を形成する線がこの仮想線に相当する。仮想線は視認可能なようにおむつカバーに存在する必要はなく、通常は視認できない。

【0040】

第1領域11aと第2領域11bの配置例としては、例えば、第1領域11aと第2領域11bは前後方向yに整列して配されてもよい。また、第1領域11aと第2領域11bは、幅方向xに延びる線に投影したときに両者の重なる部分ができる限り、幅方向xにずれながら前後方向yに配されてもよい。つまり、第1領域11aと第2領域11bは、幅方向xと前後方向yに対し斜めに配されてもよい。

【0041】

本発明のおむつカバーは、このように第1領域と第2領域を有するフック部材をフラップ部に備えることにより、おむつカバーを着用した状態で、フック部材の接合（係合）が容易に外れにくくなる。つまり、フック部材のフックが第1領域と第2領域で異なる方向に配向しているため、フラップ部のフック部材に様々な方向の力が作用しても、第1領域と第2領域の接合が一度には外れにくくなる。さらに、おむつカバーは上記説明したような仮想線が存在するように第1領域と第2領域が配されているため、フック部材を着用者の腰骨（腸骨、特に腸骨隆等）付近に固定しても、第1領域と第2領域が着用者の上下方向の凹凸（曲面）に対しフィットしやすくなる。その結果、第1領域と第2領域を左右ウェスト部等に好適に接合できるようになる。また、おむつカバーの着用時、フラップ部のフック部材には主に幅方向xの内方への力が作用するとともに補助的に着用者の下方向（前後方向y）への力が作用する傾向があるところ、おむつカバーは上記説明したような仮想線が存在するように第1領域と第2領域が配置されているため、フック部材にそのような力が加わっても、第1領域と第2領域の両方がそのような力に対して対抗できる。つまり、第1領域と第2領域の少なくとも一方がフック部材の接合を外そうとする力に対し対抗できるため、第1領域と第2領域の一方が他方の脱着を抑止して、フック部材の接合が外れにくくなる。

【0042】

フック部材は、第1領域と第2領域に加え、第3領域を有していてもよい。第3領域のフックの配向方向は、第1領域または第2領域のフックの配向方向と同じであってもよく、第1領域と第2領域のいずれのフックの配向方向とも異なってもよい。好ましくは、第3領域のフックは、第1領域と第2領域のいずれのフックの配向方向とも異なって配

10

20

30

40

50

向している。このように第3領域にフックが設けられることにより、おむつカバーを着用した状態で、フック部材の接合がより外れにくくなる。

【0043】

第3領域は、右フラップ部または左フラップ部を前後方向に横断し、第1領域と第2領域の両方と交わる仮想線と交わってもよく、そうでなくてもよい。好ましくは、おむつカバーには、右フラップ部または左フラップ部を前後方向に横断し、第1領域と第2領域と第3領域の全てと交わる仮想線が存在する。第3領域がこのような仮想線が存在するように設けられることにより、おむつカバーを着用した状態で、フック部材の接合がより外れにくくなる。

【0044】

フック部材は、さらに第4領域やそれ以上の領域を有していてもよい。第4領域以上の領域の説明は、第3領域の説明と重複するため省略する。

【0045】

フック部材がフラップ部に設けられる箇所は特に限定されないが、フック部材は、フラップ部の幅方向xの端部から100mm以内（より好ましくは80mm以内であり、さらに好ましくは50mm以内）の領域に設けられることが好ましい。このようにフック部材が設けられれば、おむつカバーを着用の際、フラップ部の幅方向xの端部を掴みながらフック部材を左右ウェスト部等に接合することができる。従って、おむつカバーの着用が容易になる。また、左右フラップ部の幅方向xの端部を掴んで、フラップ部を着用者の左右方向に引っ張ることが容易になるため、おむつカバーを着用する際、おむつカバーの着用者へのフィット性を高めやすくなる。

【0046】

フック部材が設けられる領域の形状や第1領域および第2領域の形状は特に限定されない。これらの形状は、図1に示すように扇形（半円形）であってもよく、幅を有する直線、四角形（角の丸まった四角形を含む）、楕円形、三角形（角の丸まった三角形を含む）等でもよい。

【0047】

第1領域と第2領域は1つのフック部材に形成されてもよく、異なるフック部材に形成されてもよい。図4（a）では、第1領域11aと第2領域11bが1つのフック部材7に形成されている。図4（b）では、第1領域11aがフック部材7aに形成され、第2領域11bがフック部材7aとは異なるフック部材7bに形成されている。

【0048】

フラップ部に備えられるフック部材7の接合の全てが一度に外れにくくなる点からは、第1領域11aと第2領域11bが異なるフック部材7a、7bに形成されることが好ましい。すなわち、右フラップ部4および／または左フラップ部5は、第1領域11aが形成された第1フック部材7aと第2領域11bが形成された第2フック部材7bを含む複数のフック部材7を備えることが好ましい。この場合、右フラップ部4および／または左フラップ部5は、複数のフック12が一方向に配向した第1フック部材7aと、複数のフック12が他方向に配向した第2フック部材7bとを備えることとなる。前後方向yに延びる仮想線は、第1フック部材7aと第2フック部材7bの両方と交わる。

【0049】

各領域が異なるフック部材に形成される場合、それぞれのフック部材は互いに離間していることが好ましい。すなわち、第1フック部材7aと第2フック部材7bが離間していることが好ましい。フック部材は一般にある程度の剛性を有しているところ、それぞれのフック部材が離間して設けられていれば、フラップ部のフック部材が備えられる部分で着用者の凹凸や曲面に追従しやすくなる。また、仮に1つのフック部材の接合が外れても、それにつられて他のフック部材の接合が外れにくくなる。従って、フラップ部に備えられるフック部材の接合の全てが一度には外れにくくなる。それぞれのフック部材間の離間距離（最短離間距離）は、0.5mm以上が好ましく、1mm以上がより好ましく、また10mm以下が好ましく、7mm以下がより好ましい。

10

20

30

40

50

【0050】

各領域が異なるフック部材に形成される場合のフック部材の好ましい実施態様について、図5、図7、図9、図11を用いて説明する。図5、図7、図9、図11には、右フラップ部4に備えられるフック部材7Rを示した。図5、図7、図9、図11では、第1領域11aが第1フック部材7aに形成され、第2領域11bが第2フック部材7bに形成され、第3領域11cが第3フック部材7cに形成されている。さらに図7、図9、図11では、第4領域11dが第4フック部材7dに形成されている。

【0051】

図5に示すように、第1フック部材7aは右フラップ部4（または左フラップ部5）の幅方向xの内方に向かって狭くなり、第2フック部材7bは右フラップ部4（または左フラップ部5）の幅方向xの外方に向かって狭くなることが好ましい（第1設置態様）。この場合、第1フック部材7aは左右フラップ部4、5の端部側が幅広に形成されているため、おむつカバー1の着用時、第1フック部材7aが左右フラップ部4、5の端部側からの剥離力に対抗することができる。一方、第2フック部材7bは左右フラップ部4、5の幅方向xの内方が幅広に形成されているため、おむつカバー1の着用時、第1フック部材7bが左右フラップ部4、5の内方からの剥離力に対抗することができる。すなわち、着用者が激しい動きをしたりしておむつカバー1の前方部Fが歪んだり捻れたりしても、第2フック部材7bは左右フラップ部4、5から外れにくくなる。また、第1フック部材7aと第2フック部材7bを左右フラップ部4、5の幅方向xの端部に密に配しやすくなり、フック部材7全体としての設置面積を広くとりやすくなる。その結果、フック部材7全体の接合力を高めやすくなる。

【0052】

図5には、第1フック部材7aと第2フック部材7bに加えて第3フック部材7cが設けられているが、第3フック部材7cは隣接するフック部材とは逆方向に狭くなるように設けられることが好ましい。図5では、第3フック部材7cは第1フック部材7aに隣接しているため、第3フック部材7cは幅方向xの外方に向かって狭くなることが好ましい。すなわち、フック部材が3つ以上設けられる場合は、隣り合ったフック部材の一方が幅方向の内方に向かって狭くなり、他方が幅方向の外方に向かって狭くなるように、それぞれのフック部材が設けられることが好ましい。図5には示されていないが、第4フック部材以降のフック部材が設けられる場合も同様である。

【0053】

第1設置態様では、第1フック部材と第2フック部材の形状としては、三角形（角の丸まった三角形を含む）、台形（角の丸まった台形を含む）、扇形（角の丸まった扇形を含む）等が挙げられる。図5では、第1フック部材と第2フック部材の形状は角の丸まった三角形である。

【0054】

図5に示すような第1フック部材と第2フック部材を製造する方法の一例を図6に示す。図6には、一方向（図の左右方向）に配向した複数のフック22が設けられたフック部材用シート21が示されている。第1フック部材と第2フック部材は、フック部材用シート21を例えば角の丸まった三角形23の形状で切り抜くことで得られる。この際、角の丸まった三角形23は、複数で略円形を形成するように配置され、これを切り抜く。このようにして得られた第1フック部材と第2フック部材を、角の丸まった三角形の形状が右フラップ部（または左フラップ部）の幅方向xの内方または外方に向かって狭くなるように配することで、図5に示すような右フラップ部が得られる。

【0055】

第1設置態様に関する上記説明では、主に第1フック部材と第2フック部材について説明したが、第3フック部材以降のフック部材についても同様である。

【0056】

図7に示すように、第1フック部材7aと第2フック部材7bは、右フラップ部4（または左フラップ部5）の外縁から内方に向かって狭くなることも好ましい（第2設置態様

）。この場合、第1フック部材7aと第2フック部材7bはそれぞれ、左右フラップ部4, 5の外縁に近い側が幅広に形成されているため、おむつかバー1の着用時、第1フック部材7aと第2フック部材7bのそれぞれが左右フラップ部4, 5の外縁側からの剥離力に対抗することができ、第1フック部材7aと第2フック部材7bの接合が強くなる。また、左右フラップ部4, 5の幅方向xの端部に第1フック部材7aと第2フック部材7bを密に配しやすくなり、フック部材7全体としての設置面積を広くとりやすくなる。その結果、フック部材7全体の接合力を高めやすくなる。

【0057】

図7には、第1フック部材7aと第2フック部材7bに加えて第3フック部材7cと第4フック部材7dが設けられているが、第3フック部材7cと第4フック部材7dも右フラップ部4（または左フラップ部5）の外縁から内方に向かって狭くなることが好ましい。図7には示されていないが、第5フック部材以降のフック部材が設けられる場合も同様である。

【0058】

第2設置態様で用いられる第1フック部材と第2フック部材の形状としては、第1設置態様で採用可能なフック部材の形状が挙げられる。図7では、第1フック部材と第2フック部材の形状は角の丸まった扇形である。

【0059】

第1フック部材と第2フック部材が右フラップ部または左フラップ部の外縁から内方に向かって狭くなるように配される場合、第1フック部材と第2フック部材に設けられるフックは、右フラップ部または左フラップ部の外縁に向かって配向していることが好ましい。例えば鉤形のフックの場合には、フックの頂部が右フラップ部または左フラップ部の外縁に向かって曲がっている。錨形のフックの場合には、フックの頂部の横木の長手方向が右フラップ部または左フラップ部の外縁に向かって配向している。きのこ形のフックの場合には、ピンの頂部のキャップの長軸が右フラップ部または左フラップ部の外縁に向かって配向している。このようにフックが配向することにより、おむつかバーの着用時、第1フック部材と第2フック部材がより強固に左右ウェスト部等に接合しやすくなる。

【0060】

図7に示すような第1フック部材と第2フック部材を製造する方法の一例を図8に示す。図8には、一方向（図の左右方向）に配向した複数のフック22が設けられたフック部材用シート21が示されている。第1フック部材と第2フック部材は、フック部材用シート21を例えば角の丸まった扇形24の形状で切り抜くことで得られる。この際、角の丸まった扇形24は、フック部材用シート21に対し一方向に配向するように、複数切り抜く。このようにして得られた第1フック部材と第2フック部材を、角の丸まった扇形の形状が右フラップ部（または左フラップ部）の外縁から内方に向かって狭くなるように配することで、図7に示すような右フラップ部が得られる。また、図8に示す製造例によれば、第1フック部材と第2フック部材に設けられるフックを、右フラップ部または左フラップ部の外縁に向かって配向させることができる。

【0061】

図9には、図7とは第1フック部材と第2フック部材の形状が異なる実施態様について示した。図9では、第1フック部材と第2フック部材の形状は台形である。図9に示すように、第1フック部材と第2フック部材の形状が台形の場合は、各フック部材をフック部材用シートから切り抜く際、フック部材用シートの廃棄部分を少なくすることが容易になる。この効果は、第2設置態様において、錨形やきのこ形のフックのように係合部がピンの中心軸に対し略点对称の形状を有する場合に、特に得られる。また、第1フック部材と第2フック部材の形状が台形に限らず三角形の場合も同様の効果が得られる。これについて図10を参照して説明する。

【0062】

図10には、図9に示すような第1フック部材と第2フック部材を製造する方法の一例を示した。図10には、一方向（図の左右方向）に配向した複数のフック22が設けられ

たフック部材用シート 2 1 が示されている。フック部材用シート 2 1 には、台形 2 5 が上下方向（上辺と下辺の上下方向）が交互に変わるように複数配列され、隣接する台形 2 5 同士が間隔を空けずに配置されている。第 1 フック部材と第 2 フック部材は、フック部材用シート 2 1 を台形 2 5 の形状で切り抜くことで得られる。従って、第 1 フック部材と第 2 フック部材の形状が台形の場合は、フック部材用シート 2 1 の廃棄部分を少なくすることができる。

【0063】

第 2 設置態様に関する上記説明では、主に第 1 フック部材と第 2 フック部材について説明したが、第 3 フック部材以降のフック部材についても同様である。

【0064】

第 1 フック部材 7 a と第 2 フック部材 7 b は、図 1 1 に示すように、右フラップ部 4（または左フラップ部 5）の幅方向 x の内方に向かって狭くなることも好ましい（第 3 設置態様）。この場合、第 1 フック部材 7 a と第 2 フック部材 7 b はそれぞれ、左右フラップ部 4、5 の端部側が幅広に形成されているため、おむつカバー 1 の着用時、第 1 フック部材 7 a と第 2 フック部材 7 b のそれぞれが左右フラップ部 4、5 の端部側からの剥離力に対抗することができ、第 1 フック部材 7 a と第 2 フック部材 7 b の接合が強くなる。一方、第 1 フック部材 7 a と第 2 フック部材 7 b は幅方向 x の内方に向かって狭くなっているため、左右フラップ部 4、5 の幅方向 x の内方側では、本体シートの柔軟性や伸縮性がフック部材 7 により阻害されにくくなり、おむつカバーの取り扱い性が向上する。

【0065】

図 1 1 には、第 1 フック部材 7 a と第 2 フック部材 7 b に加えて第 3 フック部材 7 c と第 4 フック部材 7 d が設けられているが、第 3 フック部材 7 c と第 4 フック部材 7 d も右フラップ部 4（または左フラップ部 5）の幅方向 x の内方に向かって狭くなることが好ましい。図 1 1 には示されていないが、第 5 フック部材以降のフック部材が設けられる場合も同様である。

【0066】

第 3 設置態様で用いられる第 1 フック部材と第 2 フック部材の形状としては、第 1 設置態様で採用可能なフック部材の形状が挙げられる。図 1 1 では、第 1 フック部材と第 2 フック部材の形状は、角の丸まった扇形である。図 1 1 に示すような第 1 フック部材と第 2 フック部材を製造する方法としては、例えば、図 6 に示すような方法を採用すればよい。

【0067】

第 3 設置態様に関する上記説明では、主に第 1 フック部材と第 2 フック部材について説明したが、第 3 フック部材以降のフック部材についても同様である。

【0068】

これまでの説明では、右フラップ部 4 と左フラップ部 5 の両方に第 1 領域 1 1 a と第 2 領域 1 1 b を有するフック部材 7 が備えられる実施態様について説明したが、第 1 領域 1 1 a と第 2 領域 1 1 b を有するフック部材 7 は右フラップ部 4 と左フラップ部 5 の少なくとも一方に設けられればよい。例えば、右フラップ部 4 と左フラップ部 5 のどちらかに、第 1 領域のみを有するフック部材が備えられてもよい。また、右フラップ部 4 と左フラップ部 5 のどちらかに、粘着剤（例えば、粘着テープ、粘着剤層）が備えられてもよい。本発明においては、好ましくは、右フラップ部 4 と左フラップ部 5 の両方に、少なくとも第 1 領域 1 1 a と第 2 領域 1 1 b を有するフック部材 7 が備えられる。

【0069】

次に、ウェスト用留め具 6 について説明する（図 1）。右ウェスト部 2 のウェスト用留め具 6 R は、左ウェスト部 3 または後方部 B に接合可能に設けられることが好ましい。また図 1 には示されていないが、左ウェスト部 3 のウェスト用留め具 6 L は、右ウェスト部 2 または後方部 B に接合可能に設けられることが好ましい。左右ウェスト部 2、3 の取り扱い性を高める点からは、ウェスト用留め具 6 R は左ウェスト部 3 に接合可能に設けられ、ウェスト用留め具 6 L は右ウェスト部 2 に接合可能に設けられることが好ましい。

【0070】

ウェスト用留め具 6 は、例えば、左右ウェスト部 2, 3 の内面に設けられる。この場合、ウェスト用留め具 6 は、右ウェスト部 2 または左ウェスト部 3 の外面に接合可能となり、左右ウェスト部 2, 3 の取り扱い性が向上する。また、ウェスト用留め具 6 R が右ウェスト部 2 の内面に設けられ、ウェスト用留め具 6 L が左ウェスト部 3 の外面に設けられてもよい。この場合、ウェスト用留め具 6 L を右ウェスト部 2 の内面に接合し、左ウェスト部 3 を右ウェスト部 2 に重ねて、ウェスト用留め具 6 R を左ウェスト部 3 の外面に接合することで、左右ウェスト部 2, 3 を着用者の腰回りに安定して固定しやすくなる。もちろん、ウェスト用留め具 6 R, 6 L の左右ウェスト部 2, 3 への設置面を内外で逆にしてもよい。ウェスト用留め具 6 はまた、左右ウェスト部 2, 3 の幅方向 x の端部から延出するように設けられてもよい。左右ウェスト部 2, 3 の取り扱い性を高める点からは、ウェスト用留め具 6 は、少なくとも右ウェスト部 2 の内面および／または左ウェスト部 3 の内面に設けられることが好ましい。

10

【0071】

ウェスト用留め具 6 が左右ウェスト部 2, 3 の内面に設けられる場合、ウェスト用留め具 6 は、左右ウェスト部 2, 3 の幅方向 x の端部から 100 mm 以内（より好ましくは 80 mm 以内であり、さらに好ましくは 50 mm 以内）の領域に設けられることが好ましい。このようにウェスト用留め具 6 が設けられれば、左右ウェスト部 2, 3 の幅方向 x の端部を掴みながら、ウェスト用留め具 6 を左右ウェスト部 2, 3 または後方部 B に接合することができ、おむつカバー 1 の着用が容易になる。

【0072】

20

ウェスト用留め具としては、フック・ループ・ファスナー（いわゆる、面ファスナー）のフック部材やループ部材、粘着剤（例えば、粘着テープ、粘着剤層）、フック（例えば、金属製のフックやプラスチック製のフック）等を用いればよい。これらの中でも、ウェスト用留め具としては、フック・ループ・ファスナーのフック部材を用いることが好ましい。フック部材としては、例えば、錨形や鉤形やきのこ形等の形状のフックを多数表面に有する部材を採用すればよい。また、フラップ部に設けられるフック部材と同様のフック部材を、ウェスト部にも設けてもよい。

【0073】

ウェスト用留め具の形状、すなわち左右ウェスト部 2, 3 のウェスト用留め具が設けられる領域の形状は特に限定されない。ウェスト用留め具は、例えば、前後方向 y に長い形状であることが好ましく、図 1 ではそのような形状のウェスト用留め具 6 R が右ウェスト部 2 に設けられている。ウェスト用留め具が前後方向 y に長い形状であるとは、ウェスト用留め具の前後方向 y の長さが幅方向 x の長さよりも長いことを意味する。ウェスト用留め具は前後方向 y に平行に設けられる必要はなく、前後方向 y に対し斜めに設けられていてもよい。ウェスト用留め具が前後方向 y に長い形状であれば、左右ウェスト部が幅広く留められ、左右ウェスト部を着用者の腰回りに安定して固定しやすくなる。ウェスト用留め具の形状としては、例えば、幅を有する直線、楕円形、四角形（角の丸まった四角形を含む）、三角形（角の丸まった三角形を含む）、扇形（角の丸まった扇形を含む）等が挙げられる。

30

【0074】

40

おむつカバー 1 の着用者の脚回りのフィット性をより高めるためには、右フラップ部 4 と左フラップ部 5 と中間部 M が伸縮可能であることが好ましい。おむつカバー 1 のこれらの部分の外縁は、おむつカバー 1 の着用時、着用者のそけい部周辺に当てられる。従って、おむつカバー 1 のこれらの部分が伸縮可能であれば、左右フラップ部 4, 5 を着用者の左右方向に拡張させながら着用者の上方向に引っ張って、左右フラップ部 4, 5 を着用者の腰回りに固定することで、着用者の脚回りのフィット性を高めやすくなる。また、左右フラップ部 4, 5 と中間部 M に加え、前方部 F も伸縮可能であることが好ましい。

【0075】

おむつカバー 1 は、右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 が伸縮可能であることが好ましい。詳細には、右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 は、幅方向 x に伸縮可能であることが好ま

50

しい。右ウェスト部 2 と左ウェスト部 3 が伸縮可能であれば、左右ウェスト部 2, 3 を伸張しながら左右ウェスト部 2, 3 を着用者の腰回りに固定することで、おむつカバー 1 の着用者の腰回りのフィット性を高めやすくなる。また、左右ウェスト部 2, 3 に加え、後方部 B も伸縮可能であることが好ましい。

【0076】

おむつカバーを構成する材料（本体シートの材料）は特に限定されない。おむつカバーを構成する材料としては、不織布、織布、編布、プラスチックフィルム、およびこれらの積層体等を使用できる。おむつカバーを構成する材料として不織布、織布、編布等の布材料を用いる場合、布材料を構成する繊維としては、例えば、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエステル、ポリアミド、ポリウレタン等の合成繊維、パルプ、絹等の天然繊維を用いればよい。おむつカバーを構成する材料としてプラスチックフィルムを用いる場合は、例えば、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエステル、ポリアミド、ポリウレタン等の合成樹脂を用いればよい。おむつカバーは、液透過性であっても、液不透過性であってもよい。

10

【0077】

おむつカバーは、左右ウェスト部および／または後方部にフック・ループ・ファスナーのループ部材を設けたり、左右ウェスト部および／または後方部をループ部材として機能する材料（例えば、不織布、織布、編布等）で構成することが好ましい。左右ウェスト部および／または後方部をこのような材料で構成することにより、おむつカバーを着用する際、フラップ部に備えられたフック部材を左右ウェスト部や後方部に固定可能となる。

20

【0078】

おむつカバーが伸縮可能な部分（以下、「伸縮部」と称する場合がある）を有する場合、伸縮可能な部分は、引張荷重に対し変形し、その変形を元に戻そうとする力を示すものであれば、特に限定されない。伸縮部は、少なくとも 1.1 倍（より好ましくは、1.2 倍、さらに好ましくは 1.5 倍）に伸張しても、ほぼ元の長さに戻ることが好ましく、前記伸張範囲で降伏点を有しないものが好ましい。

【0079】

伸縮部は、伸縮材料から形成されてもよい。伸縮材料としては、天然ゴム；スチレンーブタジエン共重合体、ポリイソブチレン等の合成ゴム；ポリウレタン、ポリエーテル・ポリエステル、ポリブチレンテレフタレート、ポリトリメチレンテレフタレート等の合成樹脂等を用いることができる。伸縮材料を含む繊維を用いて、不織布、織布、編布等に形成し、伸縮部に用いてもよい。また、伸縮材料をフィルム状に形成し、伸縮部に用いてもよい。

30

【0080】

伸縮部は、非伸縮材料から形成されてもよい。この場合、非伸縮材料から形成された繊維を織布、編布等に形成し、織布の織り方または編布の編み方により、織布や編布に伸縮性を付与してもよい。

【0081】

伸縮部は、伸縮材料と非伸縮材料とから形成されてもよい。この場合、非伸縮性材料から形成された非伸縮な部分（以下、「非伸縮部分」と称する場合がある）に、弾性部材等の伸縮材料が取り付けられてもよい。伸縮材料は伸張状態で非伸縮部分に取り付けられることが好ましい。また、伸縮材料から形成された繊維と非伸縮材料から形成された繊維とを用いて、あるいは伸縮材料と非伸縮材料とから形成された複合繊維を用いて、不織布、織布、編布等に形成し、伸縮部に用いてもよい。

40

【0082】

おむつカバーは、フラップ部に備えられるフック部材とウェスト用留め具（ウェスト用留め具は設けられる場合）を除くおむつカバー全体が伸縮可能であってもよい。この場合、フラップ部に備えられるフック部材とウェスト用留め具を除きおむつカバーは同じ材料から構成されることが、おむつカバーの製造容易性の点から好ましい。

【0083】

50

おむつカバーは、通気性を確保して、着用時の蒸れを低減する点から、不織布、織布、編布等から構成されることが好ましい。より好ましくは、フック部材とウェスト用留め具（ウェスト用留め具は設けられる場合）を除きおむつカバー全体が不織布、織布、編布等から構成される。

【0084】

本発明はまた、本発明のおむつカバーの中間部に吸収性コアが設けられた使い捨ておむつを提供する。すなわち、本発明の使い捨ておむつは、前後方向に前方部と後方部とこれらの間に位置する中間部と、後方部から幅方向に延在する右ウェスト部と左ウェスト部と、前方部から幅方向に延在する右フラップ部と左フラップ部とを有し；中間部に吸収性コアが備えられ；右フラップ部および／または左フラップ部は、複数のフックを有するフック部材を備え；フック部材は少なくとも第1領域と第2領域を有し、第1領域で前記フックが一方向に配向し、第2領域で前記フックが他方向に配向し；右フラップ部または左フラップ部を前後方向に横断し、第1領域と第2領域の両方と交わる仮想線が存在する。

【0085】

使い捨ておむつとしては、例えば、前方部と後方部とこれらの間に位置する中間部と、後方部から幅方向に延在する右ウェスト部と左ウェスト部と、前方部から幅方向に延在する右フラップ部と左フラップ部とを有する外装シートと、液透過性のトップシートと液不透過性のバックシートとこれらの間に吸収性コアが配された吸収性本体を有し、吸収性本体が外装シートの中間部に設けられるものが挙げられる。外装シートは、1枚のシートから構成されてもよく、2枚以上のシートが積層したものでもよい。外装シートとしては、例えば、内側シートと外側シートとの積層体が挙げられ、この場合、内側シートは親水性または撥水性であることが好ましく、外側シートは撥水性であることが好ましい。外装シートは、伸縮可能な部分と非伸縮部分を有してもよい。

【0086】

使い捨ておむつは、また、液透過性のトップシートと液不透過性のバックシートとこれらの間に吸収性コアが配された積層体を有し、この積層体が、前方部と後方部とこれらの間に位置する中間部と、後方部から幅方向に延在する右ウェスト部と左ウェスト部と、前方部から幅方向に延在する右フラップ部と左フラップ部とを形成し、吸収性コアが中間部に設けられるものでもよい。前記積層体は、伸縮可能な部分と非伸縮部分を有してもよい。あるいは、液透過性のトップシートと液不透過性のバックシートとこれらの間に吸収性コアが配された積層体が、使い捨ておむつの非伸縮部分を形成し、残りの部分が伸縮可能な部分としてトップシートやバックシートとは異なる材料から形成されてもよい。

【0087】

吸収性コアは、尿等の排泄物を吸収できるものであれば特に限定されない。吸収性コアとしては、例えば、吸収性材料を所定形状に成形した成形体を用いたり、あるいは吸収性材料を紙シート（例えば、ティッシュペーパー）や液透過性不織布シート等の被覆シートで覆ったものを用いることができる。吸収性コアに含まれる吸収性材料としては、例えば、粉碎したパルプ繊維、セルロース繊維等の親水性繊維や、ポリアクリル酸系、セルロース系、デンプン・アクリロニトリル系等の吸水性樹脂等が挙げられる。吸収性材料としては、少なくとも吸水性樹脂を含んでいることが好ましい。また、吸収性材料として、親水性繊維の集合体に吸水性樹脂を混合または散布したものを用いてもよい。吸収性コアの形状は特に限定されない。吸収性コアの形状としては、例えば、長方形、砂時計型、ひょうたん型、羽子板型等が挙げられる。

【0088】

トップシートやバックシートは、例えば、不織布、織布、編布、プラスチックフィルム、プラスチックフィルムと不織布との積層体等から構成される。前記積層体としては、例えば、不織布とプラスチックフィルムとが一層ずつ重ねられたものや、プラスチックフィルムを不織布で挟んで重ねられたものが示される。

【0089】

トップシートとしては、例えば、セルロース、レーヨン、コットン等の親水性繊維から

形成された不織布や；ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエステル、ポリアミド、ナイロン等の疎水性繊維から形成された不織布であって、当該疎水性繊維の表面が界面活性剤により親水化されたもの等を用いることができる。また、トップシートとして、織布、編布、孔が形成されたプラスチックフィルムを用いてもよい。

【0090】

バックシートとしては、ポリプロピレン、ポリエチレン、ポリエステル、ポリアミド、ナイロン等の疎水性繊維から形成された不織布や、プラスチックフィルム等を用いることができる。また、不織布とプラスチックフィルムとの積層体を用いてもよい。

【0091】

外装シートは、1枚のシートから構成される場合は、バックシートに使用可能な材料を用いることが好ましい。外装シートが内側シートと外側シートから構成される場合は、内側シートはトップシートまたはバックシートに使用可能な材料を用いればよく、外側シートはバックシートに使用可能な材料を用いればよい。

【0092】

前記説明した各シートの材料として不織布を用いる場合、不織布としては、スパンボンド法、エアスルー法、ポイントボンド法、メルトブロー法、エアレイド法やそれらの製法の組み合わせ等により製造されるものが好ましい。また、スパンボンド法とメルトブロー法を組み合わせたSMS法により製造された不織布を用いてもよい。

【0093】

使い捨ておむつには、吸収性コアの両側縁に沿って、立ち上がりフラップが設けられていることが好ましい。立ち上がりフラップは、例えば、吸収性コアの上面に、吸収性コアの両側縁に沿って設けられてもよく、吸収性コアの幅方向両外側に設けられてもよい。立ち上がりフラップを設けることにより、尿等の排泄物の横漏れを防ぐことができる。立ち上がりフラップは、トップシートの幅方向両側に設けられたサイドシートの内方端が立ち上げられて、形成されてもよい。前記立ち上がりフラップおよびサイドシートは、撥水性であることが好ましい。

【0094】

使い捨ておむつの左右ウェスト部、左右フラップ部、ウェスト用留め具、フラップ部に備えられるフック部材に関する説明は、おむつカバーの説明と同様である。

【0095】

本発明の使い捨ておむつの一例について、図12および図13を参照して説明する。図12は本発明の使い捨ておむつの一例を表し、図13は図12のB-B断面図を表す。なお、本発明の使い捨ておむつは、図面に示された実施態様に限定されるものではない。なお、下記の説明において、図1に係るおむつカバーの説明と重複する部分は、説明を省略する。また、上記のおむつカバーに係る説明の「おむつカバー」、「おむつカバー1」は、各々「使い捨ておむつ」、「使い捨ておむつ31」と読み替えるものとする。

【0096】

使い捨ておむつ31は、液透過性のトップシート32と液不透過性のバックシート33との間に吸収性コア34が配された積層体を有する。トップシート32は、幅方向xの長さが中間部の幅方向xの長さより短く、前後方向yの長さが使い捨ておむつ31の前後方向yの長さとはほぼ同じ長さの長方形を有する。バックシート33は、前後方向yに前方部と後方部とこれらの間に位置する中間部と、後方部から幅方向xに延在する左右ウェスト部2、3と、前方部から幅方向xに延在する左右フラップ部4、5を形成している。トップシート32の幅方向xの両端にはサイドシート35が接合され、サイドシート35は左右ウェスト部2、3と左右フラップ部4、5を形成している。

【0097】

トップシート32は、着用者の肌に面するように配置され、尿等の排泄物を透過する。トップシート32を透過した排泄物は、吸収性コア34により収容される。バックシート33は、排泄物が外部へ漏れるのを防ぎ、衣服等が汚れるのを防ぐ。

【0098】

10

20

30

40

50

サイドシート 35 には、幅方向 x の内方端に起立用弾性部材 36 が配されている。使い捨ておむつ 31 の着用時には、起立用弾性部材 36 の収縮力により、サイドシート 35 の内方部分がトップシート 32 の上方、すなわち着用者の肌に向かって立ち上がる。これにより、立ち上がりフラップが形成され、尿等の排泄物の幅方向 x の外方への漏れが防止される。

【0099】

左右ウェスト部 2, 3 には、幅方向 x に延在するウェスト用弾性部材 37 が配されている。左右ウェスト部 2, 3 のウェスト用弾性部材 37 が配された部分は伸縮部として機能する。

【0100】

中間部には、前後方向 y に延在する脚用弾性部材 38 が配されている。脚用弾性部材 38 は、中間部において、使い捨ておむつ 31 の縁に沿って設けられている。左右フラップ部 4, 5 には、略幅方向 x に延在するフラップ用弾性部材 39 が配されている。脚用弾性部材 38 とフラップ用弾性部材 39 とにより、着用者の脚回りのフィット性を高めやすくなる。

【0101】

ウェスト用弾性部材 37、脚用弾性部材 38、フラップ用弾性部材 39 はそれぞれ、サイドシート 35 とバックシート 33 との間に配され、伸張状態でサイドシート 35 とバックシート 33 とに固定されている。弾性部材としては、ポリウレタン糸、ポリウレタンフィルム、天然ゴム等の通常使い捨ておむつ等に用いられる弾性伸縮材料が用いることができる。各弾性部材は、伸張状態で、ホットメルト接着剤で固定されることが好ましい。例えば、織度 100～2, 500 d t e x のポリウレタン糸を、倍率 1.1～5.0 倍に伸張して配設し、固定する。接合手段としては、好ましくは、ゴム系のホットメルト接着剤である。

【符号の説明】

【0102】

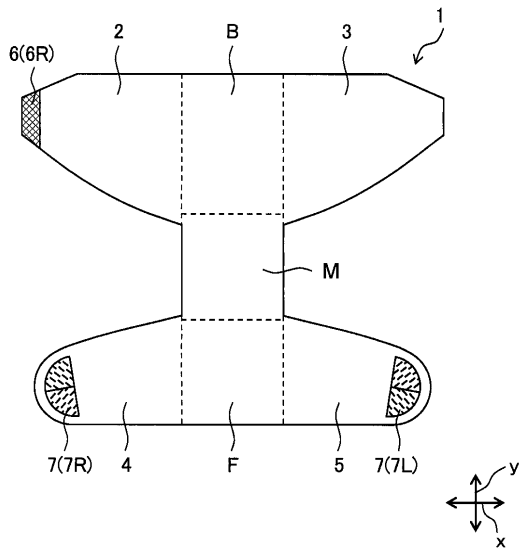
- 1： おむつカバー
- 2： 右ウェスト部
- 3： 左ウェスト部
- 4： 右フラップ部
- 5： 左フラップ部
- 6： ウェスト用留め具
- 7： フック部材
- 11a： 第1領域
- 11b： 第2領域
- 12： フック
- 31： 使い捨ておむつ

10

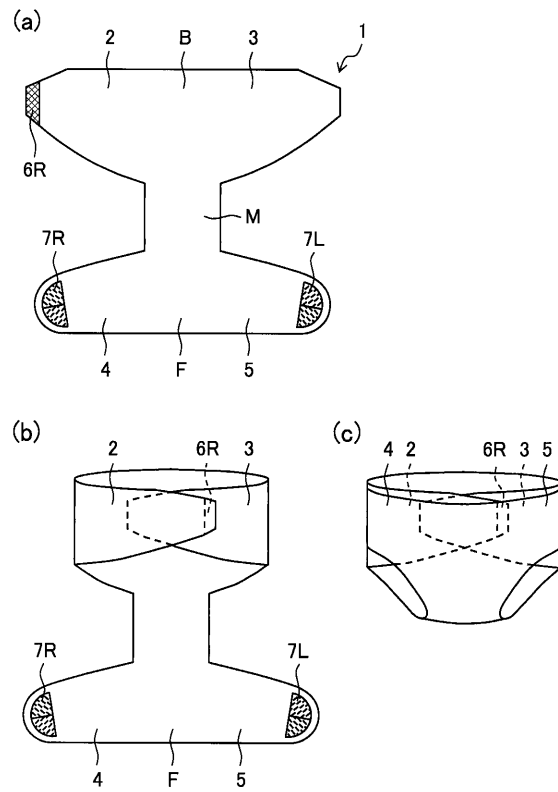
20

30

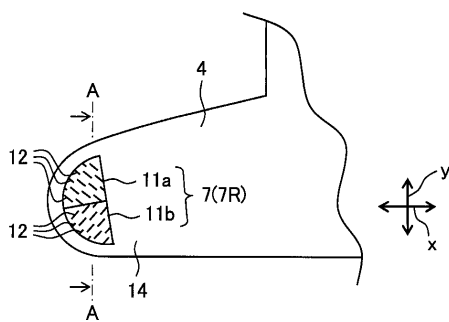
【図 1】



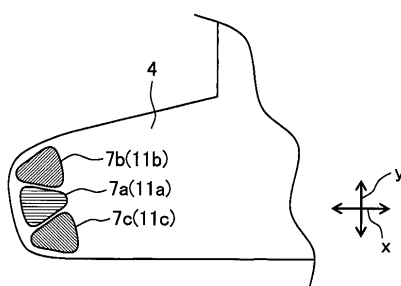
【図 2】



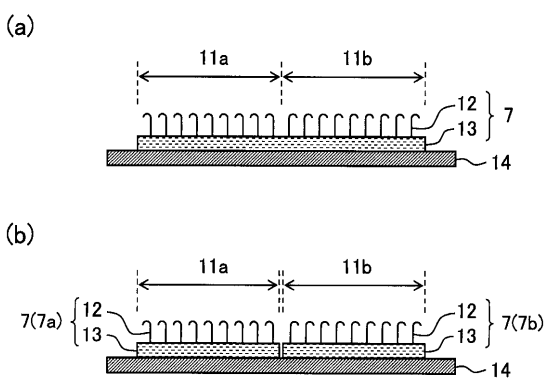
【図 3】



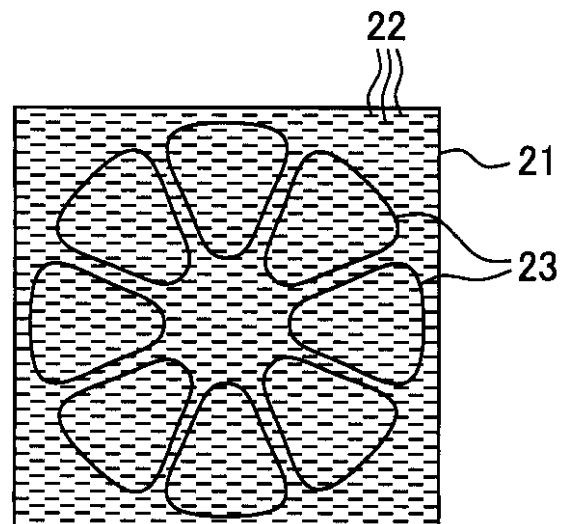
【図 5】



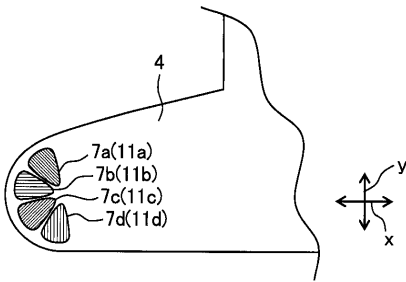
【図 4】



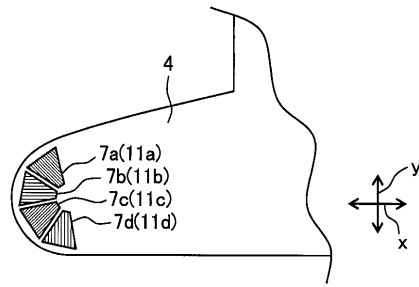
【図 6】



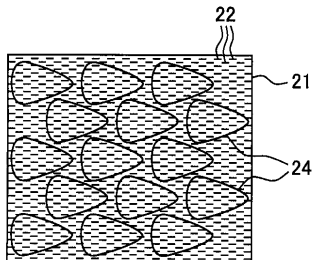
【図 7】



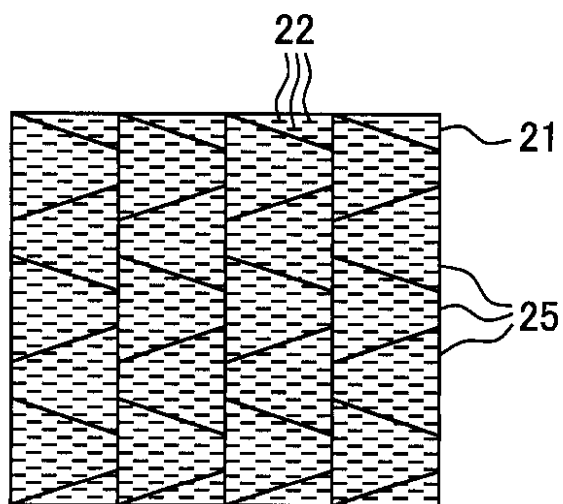
【図 9】



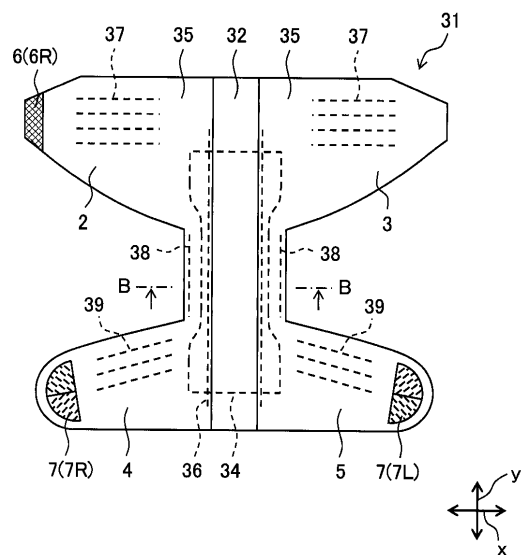
【図 8】



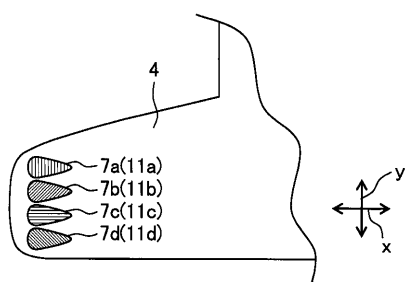
【図 10】



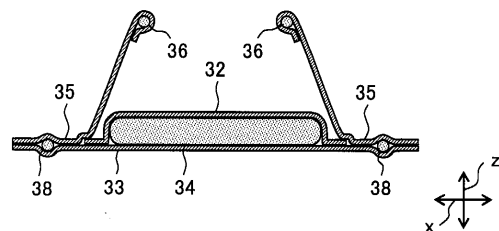
【図 12】



【図 11】



【図 13】



フロントページの続き

(72)発明者 三宅 浩史

徳島県美馬郡つるぎ町貞光字小山北89-1 株式会社リブドゥコーポレーション徳島貞光工場内

(72)発明者 立川 亜希子

徳島県美馬郡つるぎ町貞光字小山北89-1 株式会社リブドゥコーポレーション徳島貞光工場内

(72)発明者 奥藤 さえ子

大阪府大阪市中央区瓦町1丁目6番10号 株式会社リブドゥコーポレーション大阪本社内

Fターム(参考) 3B200 AA01 BA16 CA02 CB01 DE01 DE14 EA09